

## 2 【中級者編】 海岸清掃活動を主催する

**【中級者編】は沖縄県内で海岸清掃活動を主催したい方を対象にしたものです。**

中級者編では、海岸清掃活動の企画・準備・運営の基本を解説します。本編は海 LOVE ネットワーク事務局（石垣市）が原案・作成し、平成 22 年度に沖縄県が発行した「自分でやってみる？ビーチクリーン活動（図 2-1）」の詳細な解説版としての役割を持っています。

本編は、海岸清掃活動を主催したい方が活動の目的や規模、地域、環境に応じて、必要な情報を選択して利用することを目的としており、関連する情報を可能な限りのせてあります。海岸清掃活動を主催する上で特に重要と思われる項目については、「自分でやってみる？ビーチクリーン活動」と中級者編の関係図（P34）内に★マークをつけました。



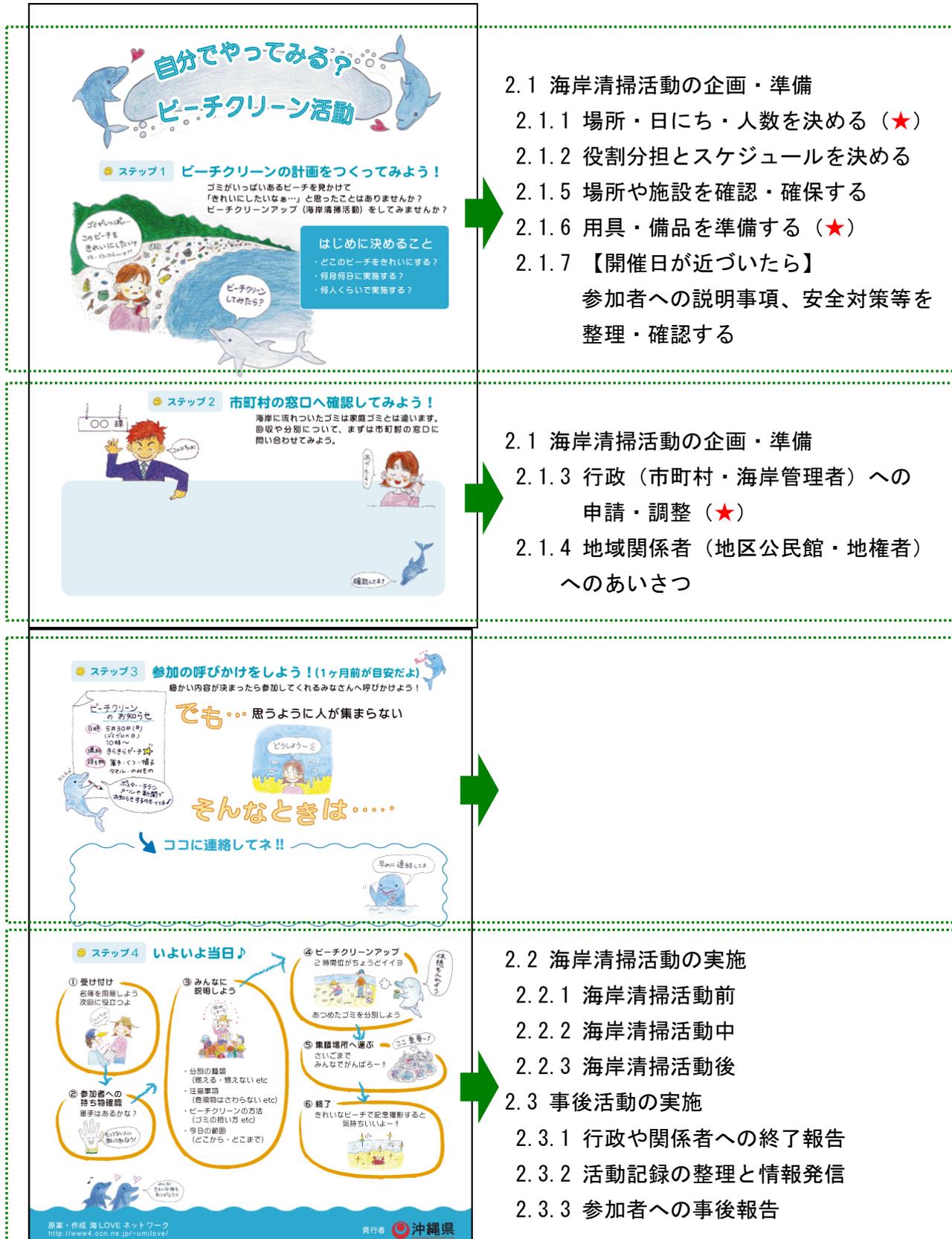
図 2-1(1) 「自分でやってみる？ビーチクリーン活動（表）」  
（発行：沖縄県 原案・作成：海 LOVE ネットワーク事務局）

- 2.1 海岸清掃活動の企画・準備
- 2.2 海岸清掃活動の実施
- 2.3 事後活動の実施



図 2-1 (2) 「自分でやってみる？ビーチクリーン活動（裏）」  
(発行：沖縄県 原案・作成：海 LOVE ネットワーク事務局)

## 「自分でやってみる？ビーチクリーン活動」と中級者編の関係図



※海岸清掃活動を主催する上で特に重要と思われる項目には★マークをつけています。

## 2.1 海岸清掃活動の企画・準備

### 2.1.1 場所・日にち・人数を決める

①どこで②いつ③何人で海岸清掃活動するか決めて、計画を具体化しましょう。

#### 実施日時、場所の決定・参加者の募集

→ 活動の時間は、午前の早い時間か、午後夕方日の落ちる直前など、暑すぎない時間に計画しましょう。また、危険防止の観点から、一人よりは出来るだけ複数で、また、生徒だけではなく、大人にもついでにもらおうようにしましょう。

【「ちゅら島守り隊」沖縄県環境生活部環境整備課 HP より】

海岸にごみがたくさん漂着している様子を見て、「きれいにしたい」と思うことから海岸清掃活動の計画がはじまります。活動が初めてであれば、まず一度、他団体の活動に参加してみる（初級者編参照）と計画しやすくなるでしょう。

#### ① 海岸を決める

海岸清掃活動を行うにあたって必要事項を確認するため、必ず海岸の下見を行いましょう。



##### ● 確認すること

- ・過去の活動実績  
(開催時期、回収したごみの量、参加人数、必要な用具・備品、地域情報等)
- ・海岸へのアクセス路の状況
- ・海岸の足場
- ・ごみの漂着状況(量と種類)

海岸を決める際に参考となるのが、過去の活動実績です。県内で活動を取りまとめて提供するネットワークやボランティア団体、NPO等民間団体等が初級者編の表1-2～表1-3を参考に情報収集してください。また、市町村に地域で活動しているボランティア団体やNPO等民間団体等を紹介してもらうのもよいでしょう(後述2.1.3①参照)。

次に、実際に海岸の下見を行い、海岸へのアクセス路の状況や足場を確認しましょう。アクセス路がなく藪をかき分けて入る場所や岩場を上り下りする場所、海からしかアクセスできない場所(図2-2)は避けて、小学生や年配者でも安全に海岸に降りられる場所を選びましょう。海岸の足場は活動の安全性や作業性に影響します。参加者が活動に慣れるまでは、岩浜や岩場のように足場が不安定な海岸(図2-3)は避けましょう。

また、慣れないうちはごみが大量にある海岸や、人力で回収できないごみが多い海岸を避けましょう。ごみの量は波や風の影響を受けて変化するので、開催日が近づいたら、再度確認する必要があります(後述2.1.7⑩参照)。



#### レベルアップしたい！



参加者が集まりやすく回収しやすい海岸で頻繁に活動が実施され、アクセス路がない等の理由で回収しにくい海岸では活動があまり行われず、漂着ごみが多たまっている傾向があります。活動に慣れた仲間が増えてきたら、初級者には難しいような海岸に挑戦することも検討しましょう。

1. 【初級者編】海岸清掃活動に参加する

2. 【中級者編】海岸清掃活動を主催する

3. 【上級者編】海岸清掃イベントを主催する

2.1 海岸清掃活動の企画・準備  
2.2 海岸清掃活動の実施  
2.3 事後活動の実施



図 2-2 海岸へのアクセスが困難な例

左：梯子を使用しておりる海岸（石垣市） 右：海からしかアクセスできない海岸（竹富町）



図 2-3 足場が不安定な海岸の例 左：岩浜（竹富町） 右：岩場（粟国村）

## ② 日程を決める

### ● 季節

天候や気温が安定した 10～4 月に海岸清掃活動を実施することが適していますが、秋季は台風に必要な注意が必要です。海水浴シーズン前は地域からの要望もあり、県内で一斉に活動が開催されています。



図 2-4 季節とごみの漂着状況の関係イメージ（第 1 期モデル調査※結果より）

※「本マニュアルで使用する用語について」参照



### いつ活動するのがオススメ？



過去の調査結果から、沖縄県では主に冬季の季節風により、北向きの海岸を中心に多くのごみが漂着することがわかっています。この風がおさまる頃に活動すると、長期間きれいな状態を維持できて効果的です。

## ● 日にち

活動日を決めるために、海岸付近の地域情報を集めましょう。



- ・海岸付近で地域行事（お祭り等）がないか
- ・同時期に同じ場所で他団体が海岸清掃活動を予定していないか

活動日と行事が重なると、活動が行事の障害となったり、海岸付近から参加者が集まらない可能性があるため避けましょう。行事の直前に活動すると、参加者以外にも活動の成果が実感できて効果的です。

同時期に同じ場所で他団体が活動する場合は、情報共有して協力しましょう。

表 2-1 沖縄の行事例（2012年）

2012年		旧暦	行事	サトウキビ	豊年祭	海神祭 ハーリー
1月	23日	1月1日	旧正月			
2月	7日	1月16日	十六日祭	収穫		
3月	24日	3月3日	浜下り	植え		
4月	4日～末	3月吉日	清明祭			
5月						
6月	23日		慰霊の日			
	23日	5月4日	四日の日			ピーク
7月					● 八重山諸島	
8月	30日～9月1日	7月13日～15日	旧盆			
9月	30日	8月15日	十五夜	植え	● 本島・宮古諸島 ● 八重山諸島	
10月			運動会		● 八重山諸島	
11月					● 八重山諸島	
12月				収穫		



海岸清掃活動といっしょに何かしたい！



海岸清掃活動とイベントを共催すると、活動に関心のない人にも参加を促すことができます。「【上級者編】海岸清掃イベントを主催する」を参照してください。

## ● 時間

海岸清掃活動の時間を決めるポイントは気温と活動時間です。



- ・夏季は気温が上がらない午前中や夕方が適している
- ・活動時間は1～1.5時間（開・閉会式を含めて2時間）を目安にする

活動時間を決める際は季節を考慮して、脱水症や熱中症、日射病になりにくい時間帯を選びましょう。また、活動時間が短いと活動に慣れるまでに終了してしまい、長すぎると、集中力が途切れて思わぬ事故につながりかねません。適切な活動時間を設定しましょう。

## ③ 人数を決める

参加者の安全を確保することが大原則です。



- ・慣れないうちは身近な仲間と小規模（2～5人）の活動を考える
- ・子どもが参加する場合は、大人と一緒に活動できる企画とする

参加者を増やしたい場合は、海岸清掃活動の企画・準備・運営に慣れてから、少しずつ周囲に声をかけるようにしましょう。

中学生以下の子どもが参加する場合は、安全に配慮して、大人と一緒に活動できるように企画しましょう（後述2.1.7①参照）。



**もっと参加者を増やしたい！**



参加者を募集する方法は後述の「2.1.8 広く参加者を募る」、大規模にイベントと共催する場合は、「【上級者編】海岸清掃イベントを主催する」を参照してください。

## 2.1.2 役割分担とスケジュールを決める

## ①役割分担と②スケジュールを決めて動き出しましょう。

## ① 役割分担を決める

表 2-2に参加者 50 名程度を想定した海岸清掃活動での役割分担例を整理します。小規模に開催する場合は複雑な役割分担は必要ありません。

表 2-2 海岸清掃活動の役割分担例（参加者 50 名程度を想定した場合）

役割	準備	当日
リーダー	企画・全体の取りまとめ・監督	
参加窓口係	参加者の連絡窓口・参加者名簿作成	受付
計画・進行係	スケジュール決定	進行
用具・備品係	用具・備品の発注・管理	用具・備品の配布及び回収
地域調整係	市町村・地域関係者等との調整（事前・事後）	
会場係	下見、駐車場・トイレ等の場所確認	会場設営・施設管理・会場案内
清掃作業係	海岸清掃活動の安全管理	
救護・避難係	緊急時に備えた対応の検討	緊急時の救護・避難誘導
連絡通報係	緊急時の備えた対応の検討	緊急時の関係者（病院等）への連絡

## ② スケジュールを決める

海岸清掃活動をする海岸や日程は約 1 ヶ月前に決定して、計画的に準備を進めましょう。表 2-3にスケジュール例を示します。

表 2-3 海岸清掃活動のスケジュール例

	工程	主催者	参加者
準備	1 ヶ月前	下見、海岸・日程・スケジュール決定 （参加者募集）	（参加申し込み）
	20 日前	用具・備品準備 あいさつ・調整、分別・安全対策確認	
	10 日前	（参加者確認）	
	3 日前～前日	会場再確認、（実施判断、連絡）	
当日	8：30～9：30	実施判断、連絡、現地集合、記録、準備	現地集合、受付 開会式 活動（休憩含む） 片付け、記録 閉会式、解散
	9：30～10：00	受付	
	10：00～10：10	開会式（説明、用具・備品配布）	
	10：10～11：30	活動（休憩含む）	
	11：30～11：50	片付け、記録	
	11：50～12：00	閉会式（報告） 片付け、解散	

## 2.1.3 行政（市町村・海岸管理者）への申請・調整

**①市町村に相談・申請して、②海岸管理者と調整を行い、連携して開催しましょう。**

### 市町村のごみ収集を行う清掃担当課・実施場所の管理者等への連絡

→ 清掃活動では、一度に多量のごみが出たり、粗大ごみがあったりと、通常のごみ収集ではすぐに対応できない場合があります。清掃活動の実施場所が決定したら、市町村の清掃担当課に、事前に次のことを確認しておくことでスムーズに活動することができます。また、実施場所の管理者へも事前に電話等で連絡を入れておくと、他のイベントと重複が避けられるなど、よりスムーズに活動出来ます。

- ① ごみの集積場所が周りの迷惑にならないよう、場所を事前に相談しておく。また、集めたごみの処理方法についても確認しておく。（直接ごみ処理場に搬入を依頼されたり、少量であれば通常のごみ収集での対応も可能な場合など、ケースによって対応が異なります。）
- ② ごみの分別の方法（燃やすごみ、燃やさないごみ、資源ごみ（缶・ビン・ペットボトル）、その他ごみの分け方）
- ③ 清掃用具支給の有無（市町村によっては、ボランティア清掃時のごみ袋は別に指定があり、支給される場合があります。）

【「ちゅら島守り隊」沖縄県環境生活部環境整備課 HP より】

### ① 市町村に相談・申請する

海岸清掃活動の企画・準備段階で、わからない点や不安な点があれば、海岸のある市町村担当課に相談してみましょう。この時点で、市町村のボランティア支援の有無や支援内容（手袋・ごみ袋の支給、用具レンタル、広報等）、回収したごみの分別方法、運搬方法（市町村・自己運搬）、海岸管理者や地域関係者、地域情報を把握しておく必要があります。なお、市町村から支援を受けるために、所定の申込書（図 2-5）を提出する必要がある場合もあります。各市町村担当課の指示に従いましょう。



- 伝えること
  - ・開催場所、日時、参加人数
  - ・団体名、代表者名、連絡先
- 把握すること
  - ・市町村の担当課と連絡先（ごみ回収の担当課、自然環境の担当課等）
  - ・市町村からの支援（支援有無、手袋・ごみ袋支給、用具レンタル、広報等）
  - ・回収したごみの分別方法
  - ・回収したごみの運搬方法（市町村・自己運搬）
  - ・海岸管理者※
  - ・地域関係者（地区公民館、地権者）
  - ・地域情報（地域のイベントの有無、注意点、他団体の活動情報）

※「本マニュアルで使用する用語について」参照

平成 年 月 日受付

## 宮古島市清掃ボランティア申込書

宮古島市長 殿

下記のとおりボランティア清掃を実施したいので、申請します。

記

氏名・団体名			
代表者(団体のみ)		電話番号	
清掃実施日	平成 年 月 日		
清掃場所			
清掃人数	人		
ボランティア袋 申請枚数	枚		

以上

## 【自己搬入について】

この度は清掃ボランティアを行っていただき、有難うございます。  
ごみはしっかり分別して、市クリーンセンターまで運んでいただくよう、お願いします。

自己搬入の日時	平成 年 月 日
搬入に使用する車 (車種・台数等)	
備考	

## 【情報公開・参加者の募集について】

本清掃の情報を「宮古島 海の環境ネットワーク」ホームページへ掲載してよいか、  
また、同ホームページ上で本清掃への参加者を募集するかどうか、御回答下さい。

情報提供	
参加募集	

課長	係長	係	受付者

図 2-5 市町村に提出する清掃ボランティア申込書の例（作成：宮古島市）

## ② 海岸管理者\*と調整する

海岸は海岸保全区域と一般公共海岸区域に分類され、海岸管理者によって管理が行われています。2.1.1①で決めた海岸清掃活動をする海岸の海岸管理者は、2.1.3①で市町村担当課に相談した際に紹介してもらおうとよいでしょう。また、海岸がどちらの区域に分類されるかを調べるには、沖縄県環境生活部環境整備課 HP で公開している「海岸の管理（海岸保全区域）（図 2-6）」を参考にしてください。

海岸清掃活動の企画段階で、海岸管理者に活動計画について説明して、意見調整を行うことを心がけてください。

※「本マニュアルで使用する用語について」参照



- 伝えること
  - ・開催場所、日時、参加人数
  - ・団体名、代表者名、連絡先
- 相談すること
  - ・活動中に危険物が発見された場合の対応

沖縄県  
OKINAWA PREFECTURE

目的別で探す
県民ハンドブック
組織で探す
知事のページ
リンク
LANGUAGE
サイトマップ
ヘルプ

環境生活部  
**環境整備課**  
Environmental Management Division

海岸の管理(海岸保全区域)

一般公共海岸区域の管理者は、沖縄県知事となっています。  
また、海岸保全区域の海岸管理者は以下のとおりとなっています。  
なお、本県では海岸管理者との協議に基づき恩納村長及び渡嘉敷村長が地域の海岸管理を行っています。

海岸保全区域	海岸管理者	MAP
河川局所管海岸保全区域	県知事(土木建設部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宮古諸島</li> <li>・ 八重山諸島(与那国を除く)</li> <li>・ 八重山諸島(与那国)</li> </ul>
港湾局所管海岸保全区域	県知事(土木建設部)又は港湾管理者の長※1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ その他地域については、土木建設部が発行しているパンフレット「おきなわの川と海」をご覧ください。</li> </ul> <div style="text-align: center;"> <p style="font-weight: bold; color: orange;">「おきなわの川と海」</p> </div>
水産庁所管海岸保全区域	漁港管理者の長※2	
農村振興局海岸保全区域	県知事(農林水産部)	
上記以外	県知事	

※1 那覇港、石垣港、平良港の港湾区域内は各港湾管理者の長、それ以外は県知事  
 ※2 県管理漁港は県知事(農林水産部)、市町村管理漁港は市町村長 詳しくは県漁港漁場課HP

図 2-6 海岸の管理（海岸保全区域）（沖縄県環境生活部環境整備課 HP より）

※「おきなわの川と海」はパンフレットであり、沖縄県の河川・砂防・海岸管内図が記載されています。

## 2.1.4 地域関係者（地区公民館・地権者）へのあいさつ

**①地区公民館、②地権者に海岸清掃活動計画を説明して、要望を聞き、協力を得ましょう。**

## ① 地区公民館に協力をお願いする

海岸付近の地区公民館に海岸清掃活動計画を説明して、地域情報や活動時の要望や注意事項等を聞きましょう。また、参加者を広く募るときに地区公民館に募集をお願いする場合があります（後述2.1.8参照）。活動の理解を得て、協力してもらえよう働きかけましょう。

## ② 地権者に協力をお願いする

参加者の駐車スペースや回収したごみの集積場所等として、私有地を一定期間借りることがあります。地権者に海岸清掃活動計画を説明して、借りる日時や場所、範囲を明確に伝えましょう。説明の際には地図を利用するとより正確です。

## 2.1.5 場所や施設を確認・確保する

**①ごみの集積場所②駐車スペース③受付・開会式④休憩⑤トイレの場所⑥病院・診療所⑦AED 設置場所等を確認・確保しましょう。**

## ① ごみの集積場所を確認・確保する

市町村が回収したごみの収集・運搬を行ってくれる場合、予め集積場所を指定されることがあります。その場合も主催者が確認のために下見をしましょう。主催者が集積場所を確保する場合は、下記の項目を確認します。集積場所は廃校グラウンドや港の脇、空き地等が適しています。土地を借りる場合は関係者と調整が必要です（前述2.1.4②参照）。

市町村によっては、回収したごみを市町村の指定する処理施設まで自己運搬する必要があります（前述2.1.3①参照）。その場合も運搬車両が入れて、積み込み作業ができるスペースを確保しておきましょう。



## ● 確認すること

- ・海岸から人力でごみを移動できる距離・場所か（海岸へのアクセス路付近）
- ・どのくらいのごみを置くことができるか
- ・運搬車両が入って作業できるスペースがあるか
- ・近隣に迷惑をかけないか
- ・ごみが散乱し難い環境か（風や波の影響を受けないか）



ごみを集積場所に移動させた後、直ちに収集・運搬されとは限りません。1～3日程度、集積場所に置かれたままとなることを想定して、場所を確認・確保する必要があります。

1. 【初級者編】海岸清掃活動に参加する

2. 【中級者編】海岸清掃活動を主催する

3. 【上級者編】海岸清掃イベントを主催する

2.1 海岸清掃活動の企画・準備  
2.2 海岸清掃活動の実施  
2.3 事後活動の実施



図 2-7 ごみの集積場所 左：石垣市 右：多良間村

## ② 駐車スペースを確保する

集合場所付近に、参加者のための駐車スペースを確保する必要があります。広さは参加人数を基に考えましょう。土地を借りる場合は関係者と調整が必要です（前述2.1.4②参照）。



図 2-8 駐車スペース 左：竹富町 右：石垣市

## ③ 受付や開・閉会式の場所を確保する

受付や開・閉会式は名簿記入や用具・備品の配布、説明が落ち着いてできる場所にしましょう。海岸は風が強いと物が飛び、説明が聞こえ難い可能性があります。土地を借りる場合は関係者と調整が必要です（前述2.1.4②参照）。



図 2-9 受付と開・閉会式会場の様子（石垣市 明石公民館を活用した例）

左：受付 右：開・閉会式会場

#### ④ 休憩場所を確保する

休憩場所は海岸から近く、日差しを避けることのできる施設や木陰にしましょう。条件にあう場所が近くにない場合は、テントをはって、場所を確保しましょう。テントをはる場合や土地を借りる場合は関係者と調整が必要です（前述2.1.4②参照）。



図 2-10 テントを休憩場所として活用した例（石垣市）

#### ⑤ トイレの確保

海岸付近にトイレがあるか確認しておきましょう。付近の施設でトイレを借りる場合は関係者と調整が必要です。仮設トイレを借りる方法もあります。

#### ⑥ 病院・診療所の確認

海岸の最寄りの病院や診療所について、連絡先と場所を確認しておきましょう（後述2.1.7⑦参照）。大規模に開催する場合は、病院や診療所に予め活動計画を説明して、緊急時の対応を相談しておくトスムーズです。

#### ⑦ AED 設置場所の確認

万が一に備え、海岸の最寄りの AED 設置場所を確認しておきましょう。AED は主に消防・海上保安部関係施設や医療施設、市町村役場、介護福祉施設、公共交通機関、学校・保育施設、文化娯楽施設（図書館等）、宿泊施設等に設置されています。インターネット上に AED 検索サイトがあるので事前に確認しましょう。

【AED 設置場所検索：<http://www.qqzaidan.jp/AED/aed.htm>】

【日本全国 AED マップ：<http://aedm.jp/>】



**近くに AED の設置場所がない！**



有料で AED をレンタルすることもできます。命どう宝ですね。

【参考：救急コム：<http://www.kyumei.com/>】

1. 【初級者編】海岸清掃活動に参加する

2. 【中級者編】海岸清掃活動を主催する

3. 【上級者編】海岸清掃イベントを主催する

2.1 海岸清掃活動の企画・準備  
2.2 海岸清掃活動の実施  
2.3 事後活動の実施

## 2.1.6 用具・備品を準備する

**必要な用具・備品を準備しましょう。**

### 作業準備

→①清掃用具の準備

ごみ袋、軍手、ちりばさみなど、必要数準備しましょう。夏場であれば十分な水分補給が出来るよう、飲み物の用意も大切です。(一部の市町村では、ボランティア活動に対し清掃用具を支給するところもありますし、(財)沖縄観光コンベンションビューローでも、ボランティア清掃活動に対し、清掃用具の助成を行っています。)



【「ちゅら島守り隊」沖縄県環境生活部環境整備課より】

用具・備品は表 2-4を参考にして、参加人数に応じた数量を準備しましょう。

表 2-4 準備する用具・備品例

	品目	備考
なるべく準備したいもの	手袋 (軍手)	・軍手が安価、手の平側がゴムコーティングされた手袋が便利 ・市町村から支給される場合がある
	ごみ袋	・45L はひとりで持ち運びできる ・60L は軽いごみ (ペットボトルや発泡スチロール等) 専用とする ・市町村から支給される場合がある
	飲み物	・夏季は脱水症や熱中症予防のため、十分な量を準備する
	密閉式ビニール袋	・廃油ボールやライター、医療系廃棄物等の小さな危険ごみを入れる
	救急セット	・傷口を洗うきれいな水、ウェットティッシュ、絆創膏等
	携帯電話	・緊急時に関係者と連絡をとる ・主催者が緊急情報を入手する (※海岸で使用できるか要確認)
	筆記用具・カメラ	・受付用、記録用
便利なもの	ラジオ	・主催者が緊急情報を入手する (※携帯電話でも情報入手可能)
	自立式の万能袋	・ごみをまとめて運ぶことができる (P47 参考1 参照)
	トング (ごみばさみ)	・手で回収しにくい場合に使用する
	鎌・ナイフ	・絡まったごみを回収しやすく処理する
	割り箸	・廃油ボール回収時に使用する
	ブルーシート	・参加者の荷物置き場や休憩場所として使用する ・一斉に分別する時に回収したごみを広げると便利
	のぼり旗	・活動場所・駐車スペース案内
	旗ざお	・危険なごみ発見場所の目印となる
	トランシーバー	・主催者が連絡を取り合うのに便利 (※海岸で使用できるか要確認)



用具・備品は早めに手配し、当日まで保管しておく場所を確保しましょう。消耗品以外は使い捨てを避け、積極的に再利用しましょう。

## 【参考1 用具例 海岸清掃マニュアル（回収事業編）（作成：沖縄県）より】

回収用具等の種類	使用目的・方法等	必要数算出の目安
買い物かご 	砂浜の回収作業において、手で回収し辛い小さなごみに付着した砂を落とす場合に有効である。	必要数算出の目安 回収の役割分担にあわせ適宜。細かいごみが多い場合には多数用意する ※消耗品ではなく、繰り返し使用できる
45・90ℓのごみ袋 	片手で回収できるサイズのごみを回収するのに使用する。90ℓのタイプを使用した方が効率上がる場合もある。袋の色で回収するごみの種類を分ける	5枚/人/日
土のう袋 	主にガラス類（破片、瓶）や電球・蛍光灯、空き缶等の金属類の回収に使用する。	1枚/3人/日
密閉式ビニール袋 	廃油ボールやライター、ボンベ類、医療系廃棄物等、海岸で分別しておきたい小型のごみの回収に使用する。	0.5枚/人/日
自立式の万能袋 	プラスチック製の漁業用ブイや流木など、ビニール袋での回収に不向きな比較的大きなごみの回収に使用する。また、無作為にごみを回収し、後で分別する場合でもビニール袋を使用するよりも効率良く回収できる。収納容量の種類は多いが、200ℓ程度のものが取り回しが良く、 <u>ごみを多く収納しても重くなり過ぎない</u> ため使いやすい。	0.5～1枚/人  ※消耗品ではなく、繰り返し使用できる
フレコンバッグ（トン袋） 	本来は集積したごみを最後にまとめるために使用するが、海岸に発泡スチロールやペットボトル等の重量の軽いごみが多く漂着している場合には、海岸で使用すると効率が良い。	漂着量 $m^3$ × 枚
クーラーボックス、 メディカルペール 	クーラーボックスは注射器やバイアル等の医療系廃棄物、薬品瓶等の危険物の回収に使用する。危険物は密閉式ビニール袋に入れた上でクーラーボックスに回収する。容積は12ℓ程度の小型のものが使いやすい。メディカルペールは最終的に収集・運搬業者に回収物を引き渡すときに使用する。一度ふたをすればはずせない構造になっている。	危険物担当者数
漁網等の切断用具（冷凍包丁） 	冷凍食品専用の包丁（写真）は、波状の両刃の包丁であり、漁網やロープ等の切断に便利である。その他、「なた」、「電熱カッター」もロープ等の切断に適している。	切断担当者数

## 2.1.7 【開催日が近づいたら】参加者への説明事項、安全対策を整理・確認する

開催日が近づいたら、参加者への説明事項や安全対策をまとめましょう。

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| ① 参加者に合わせた企画とする | ⑥ 熱中症等の対策をまとめる     |
| ② ごみの回収方法を定める   | ⑦ 緊急時の連絡体制を整える     |
| ③ ごみの分別方法をまとめる  | ⑧ 緊急時の対策をまとめる      |
| ④ 危険なごみの取扱いを決める | ⑨ 貴重な動植物や自然環境に配慮する |
| ⑤ 危険な動植物対策をまとめる | ⑩ 活動場所を再度確認する      |

## ① 参加者に合わせた企画とする

中学生以下の子どもが参加する場合は、安全に配慮して、大人と一緒に活動できるような企画としましょう。



## ● 企画例

- ・活動範囲を区切り、キッズエリアをつくる（安全で移動距離が少ない場所）
- ・回収作業をメインとせず、海ごみ（漂着ごみ）問題を学ぶ場とする

## ② ごみの回収方法を定める

ごみの回収方法は分別するタイミングで2種類あります。

- ・回収してから一斉に分別する方法
- ・大まかに分別しながら回収する方法

見つけたごみは分別せずに全て回収して、後に一斉にブルーシートの上にごみを広げて分別する方法と、参加者がごみを種類別に大まかに分別しながら回収する方法があります。どちらの方法が適しているかは、参加者の熟練度や参加人数、ごみの種類や量によって、主催者が判断しましょう。

分別作業に慣れるまでは前者の方法をとり、分別方法をよく理解している人を中心としたチームをつかって一斉に分別するほうが、精度も高く、効率的です。参加者が分別しながら回収した場合は、ごみをまとめる段階で、正しく分別ができていないか主催者が確認しましょう。この他に、危険なごみ（後述2.1.7④参照）だけを集めるチームをつかって、海岸を回り、参加者から回収するとよいでしょう。



図 2-11 分別作業（回収してから一斉に分別する方法）の様子 左：石垣市 右：竹富町

③ ごみの分別方法をまとめる

市町村に相談したごみの分別方法（前述2. 1. 3①参照）を一覧にしておきましょう。漂着ごみは家庭ごみと分別方法が異なる場合があるので、参加者にわかりやすくまとめましょう。



## 漂着ごみの分別一覧

家庭でのごみ分別とは若干異なります。分別は以下を参考に丁寧に行いましょう。

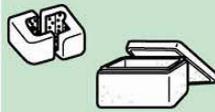
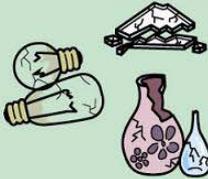
 <p><b>もやさない</b></p> <p>ウレタン(黄)・プラスチックトレーなどもこちらに分類</p>	 <p><b>もやす</b></p> <p>分別は家庭ごみと同じ</p>				
 <p><b>透明袋</b></p> <p>それぞれ分別して袋に入れる</p>	<p><b>ペットボトル</b></p> 	<p><b>飲料缶</b></p> 	<p><b>発泡スチロール</b></p>  <p>*袋に入りきらないサイズの物はそのまま集積場に</p>		
<p><b>ビン</b></p>  <p>*割れている物は「ワレモノ」に分類</p>	<p><b>電球・蛍光灯</b></p>  <p>*割れている物は「ワレモノ」に分類</p>	<p><b>ワレモノ</b></p> 	<p><b>漁具</b></p>  <p>*小さな浮きやブイ、又は少量の釣り糸</p>		
<p><b>袋に入れない物</b></p> <p>*袋に入らない大きな物は、そのまま集積場へ</p>  <p>大きなブイ(浮き球) 大きな発泡スチロール 大量のロープ</p> <p>*その他、家電や家具などの不法投棄物はこちらに連絡↓ 石垣市役所 環境課</p>	<p><b>危険(キケン)なもの</b></p> <p>異臭を発する物など危険物には手を触れないで連絡を</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="border: none; vertical-align: top;"> <p>*袋や缶などに入れて「キケン物」と書く</p>  <p>注射器などの医療器具</p>  <p>ガスが残っているライター</p>  <p>中身入りのスプレー缶</p> </td> <td style="border: none; vertical-align: top;"> <p>*さわらずに、そのまま連絡</p> <p>八重山土木事務所 維持管理班 0980-82-2942</p>  <p>薬品入りのポリタンク</p>  <p>廃油入りのドラム缶</p> </td> </tr> </table> <p>*大量の建設資材はこちらに連絡↓ 八重山福祉保健所 生活環境班 0980-82-3243</p>			<p>*袋や缶などに入れて「キケン物」と書く</p>  <p>注射器などの医療器具</p>  <p>ガスが残っているライター</p>  <p>中身入りのスプレー缶</p>	<p>*さわらずに、そのまま連絡</p> <p>八重山土木事務所 維持管理班 0980-82-2942</p>  <p>薬品入りのポリタンク</p>  <p>廃油入りのドラム缶</p>
<p>*袋や缶などに入れて「キケン物」と書く</p>  <p>注射器などの医療器具</p>  <p>ガスが残っているライター</p>  <p>中身入りのスプレー缶</p>	<p>*さわらずに、そのまま連絡</p> <p>八重山土木事務所 維持管理班 0980-82-2942</p>  <p>薬品入りのポリタンク</p>  <p>廃油入りのドラム缶</p>				

図 2-12 漂着ごみの分別例（石垣市）

「HOW TO ビーチクリーン（裏）」（発行：海 LOVE ネットワーク事務局）

## ④ 危険なごみの取扱いを決める

海岸に漂着した危険なごみの取扱いについて、参加者にわかりやすくまとめておきましょう。表 2-5 に整理した危険なごみの対応例を参考にしてください。参加者が何かよくわからないごみを発見した場合は、触れる前に主催者に相談してもらいましょう。その際に発見場所を見失わないように、目印となる旗ざおをさしてもらおうとよいでしょう。

表 2-5 危険なごみの対応例

危険なごみ		対応（理由）
割れ物（ガラス・陶器等）		参加者が注意して集める
割れ物 （蛍光灯・電球）		
スプレー缶		
ライター		
廃油ボール		
引火性のもの （ガソリン・軽油・灯油等）	廃油入りペットボトル 	
医療系廃棄物 （注射器・針・薬瓶等）	注射器 薬瓶 	
爆発性のもの （信号弾・発炎筒・爆竹・高圧ガス等）	船舶用発炎筒 ガスボンベ 	主催者が対応する （参加者は集めない）
中身のわからない液体等が入ったもの （ポリタンク・ドラム缶等）		※発見者は発見場所に目印として旗ざおをさすとよい
動物の死体 （有毒・感染の恐れがあるもの・調査対象のもの）		

主催者が対応する危険なごみ（表 2-5の黄色部分）については、主催者から関係者（相談窓口）に連絡をして、対応をお願いしましょう（後述2.1.7⑦参照）。

相談窓口については、沖縄県海岸漂着物対策事業において、「地域住民による回収が不適当な海岸漂着物等や災害等緊急時に相当する漂着被害を確認した場合の品目別の行政機関相談窓口の整理」で整理されています（下記参考 2 参照）。

**【参考 2 地域住民による回収が不適当な海岸漂着物等や災害等緊急時に相当する漂着被害を確認した場合の品目別の行政機関相談窓口の整理（沖縄県海岸漂着物対策事業※より）】**

漂着被害の確認と海岸漂着物の品目の区分		行政機関相談窓口
地域住民が回収することが不適当な海岸漂着物等を確認、あるいは回収	廃家電	市町村一般廃棄物担当部局
	発煙筒や不発弾等の爆発物	【回収しない場合】 第十一管区海上保安本部・地域の所轄警察署 【回収した場合】 市町村一般廃棄物担当部局
	正体不明の液体入り容器	市町村一般廃棄物担当部局で対応し、取扱いが特定できない場合は所轄の福祉保健所で対応
	クジラ・ウミガメ等の保護動物の死骸	【廃棄物としての取扱い】 市町村一般廃棄物担当部局、所轄の福祉保健所 【調査等の標識がある場合】 環境省那覇自然環境事務所 【鯨類・ウミガメ】 (財)日本鯨類研究所、NPO 法人日本ウミガメ協議会
その他生命、身体に危険を及ぼすおそれのあるごみ	海岸管理者※	
地域住民が災害等緊急時に相当する大量漂着を確認	流木	海岸管理者
	廃油ボール、劇薬入り容器、医療系廃棄物	海岸管理者 第十一管区海上保安本部

※「本マニュアルで使用する用語について」参照

## ⑤ 危険な動植物対策をまとめる

波打ち際には有毒クラゲやヒトデ、植生帯には蜂、ハブ、アダンのような危険な動植物が生息しています。参加者には肌を露出しない服装で対策してもらい、危険な動植物を見かけたら近づかない、触れないように呼びかけましょう。

参加者が危険な動植物によってケガをした場合に備えて、病院へ行く前に現場でできる応急処置を学んでおきましょう。沖縄県が発行した「気をつけよう！！海のキケン生物（図 2-13）」や「ハブに注意！（図 2-14）」の冊子等が参考になります。

表 2-6 危険な動物によるケガの応急処置例

	危険な動物	応急処置
クラゲ	漂着したカツオノエボシ 	①海水で洗い流す ②氷や冷水で冷やす ※酢で洗わない。 ※クラゲの種類によって処置が異なるので注意しましょう。
ヒトデ	漂着したオニヒトデ 分解中のオニヒトデ 	①棘を取り除く ②患部を 40～45 度の湯につける ※死んだ個体でも、ケガの恐れがあるので触れないようにしましょう。
蜂	ツマグロスズメバチ  独立行政法人森林総合研究所 HP <a href="http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/seibut/bcg/bcg00221.html">http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/seibut/bcg/bcg00221.html</a> より	①毒を絞り出す ②水で洗って冷やす ③薬を塗る  蜂駆除スプレーと塗り薬
ハブ	<b>ハブの毒</b> ハブの毒牙は注射針のような構造で、先端付近から黄色い毒液が出ます。数回分の攻撃に使える量の毒を、毒腺に溜めています。毒の強さは、ハブを10とした場合、タイワンハブで12、サキシマハブで7、ヒメハブで3くらいです。毒牙は、年に数回生えかわります。 	●専用吸引器あるいは口で毒を吸い出す ※緊急的に毒を除去する必要があります。  「口の中に傷があると軽い炎症を起こすこともあります。心配いりません。また毒は飲み込んでも、胃の中で分解されるので害はありません。」 ←「ハブに注意！」（発行：沖縄県衛生環境研究所）より

1. 【初級者編】海岸清掃活動に参加する

2. 【中級者編】海岸清掃活動を主催する

3. 【上級者編】海岸清掃イベントを主催する

- 2.1 海岸清掃活動の企画・準備
- 2.2 海岸清掃活動の実施
- 2.3 事後活動の実施

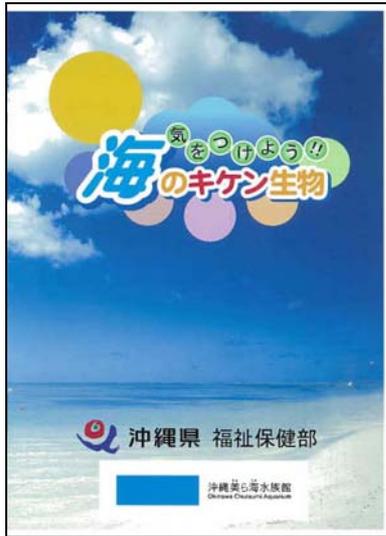


図 2-13 危険な動植物を解説した冊子例(1)

「気をつけよう!! 海のキケン生物」(発行: 沖縄県福祉保健部) より



## ⑥ 熱中症等の対策をまとめる

気温が高い日や日差しが強い日は、特に熱中症や脱水症、日射病に注意するように呼びかけましょう。参加者には帽子をかぶる等の対策をして、水分や塩分をこまめに補給してもらいましょう。無理をせず、体調が悪く感じたら自主的に休息をとってもらいましょう。

参加者が熱中症等になった場合に備えて、病院へ行く前に現場でできる応急処置を学んでおきましょう。

## 気をつけよう! 熱中症

# 熱中症の応急処置

### 現場での応急処置

#### ① 涼しい環境への避難

風通しの良い日陰やクーラーのある室内など、涼しい場所へ避難させる。



#### ② 脱衣と冷却

衣服をゆるめるなどし、体からの熱の放散を助ける。水や水で首や脇の下、足の付け根などを冷やす。



#### ③ 水分や塩分の補給

冷たい水や、スポーツドリンクなどを与える。(ただし、意識がはっきりしていない場合、経口での摂取は厳禁。)



#### ④ 医療機関へ運ぶ

意識がはっきりしないとき、自力で水分摂取ができないときは、すぐに医療機関へ搬送する。



**熱中症重症度Ⅰ**  
(症 状) めまい、たちくらみ、筋肉のこむらがえりなど  
(対処法) 水分・塩分を補給し、涼しいところで休息させる

**熱中症重症度Ⅱ**  
(症 状) 頭痛、吐き気、倦怠感など  
(対処法) 水分・塩分を補給し、涼しいところで休息させる  
足を高くして休ませる  
自力で水分補給ができなければ、すぐに病院へ

**熱中症重症度Ⅲ**  
(症 状) 意識がない、虚脱、呼びかけに対する返事がおかしい  
まっすぐに歩けない、高い体温であるなど  
(対処法) 水や水で首や脇の下、足の付け根などを冷やす  
すぐに救急車を呼ぶ

平成21年度沖縄県内発生状況(人数)  
調査期間 H21.6.1～9.30(県内定点医療機関からの報告による)

居住地別		発生場所	
県 内	330	農 地	40
県 外	17	海 浜	7
<b>男女別</b>		運 動 場	28
男	318	路	21
女	29	ゴ ル フ 場	4
<b>年齢別</b>		建設・工事現場	158
0 ～ 9	1	そ の 他	48
10 ～ 19	38	屋 外 計	306
20 ～ 29	63	体育館など運動施設	10
30 ～ 39	78	自 宅	12
40 ～ 49	52	そ の 他	19
50 ～ 59	53	屋 内 計	41
60 ～ 69	31	合 計	347
70 ～	31	<b>発生要因</b>	
<b>直射日光暴露時間</b>		農作業(疲労性)	40
2時間以内	29	漁業(疲労性)	1
2～4時間	76	水泳・甲羅干し	5
4時間以上	194	運 動	34
観 望 無 し	43	ゴ ル フ	5
不 明	5	屋外作業(暑中)	190
※直射日光暴露時間無しは、発生総数の約12%です。屋内での予防対策も重要です!		屋外作業(暑外)	15
死 亡 者 数 1人	定 点 医 療 機 関 数 23	そ の 他	16
		屋 外 計	306
		運 動	9
		そ の 他	32
		屋 内 計	41
		合 計	347

沖縄県福祉保健部 国保・健康増進課 TEL098(866)2209

沖縄県熱中症速報(6月～9月) [沖縄県熱中症 検索](#)

図 2-15 熱中症の応急処置例

「気をつけよう! 熱中症 熱中症の応急処置」(作成: 沖縄県福祉保健部)

M-55

## ⑦ 緊急時の連絡体制を整える

緊急時（人身災害・事件・事故・自然災害発生）や大量の流木が漂着している等の活動で困ったこと（P51 参考 2 参照）が起きたら、主催者から関係者に連絡して、迅速に対応しましょう。そのために緊急連絡先である警察、消防本部、病院・診療所、海上保安部、市町村担当課、海岸管理者\*等の電話番号を調べて、P57 の図 2-16のようなフロー図を作成しておくとい良いでしょう。連絡する際は、「いつ・どこで・だれが・どのように」を正確に伝えましょう。

また、当日に最新情報（天気、災害情報等）を入手するための手段（携帯電話・ラジオ等）を準備しましょう（表 2-4）。自然災害発生に備えて、避難場所を調べて、図 2-16のフロー図に記載すると良いでしょう。

※「本マニュアルで使用する用語について」参照



### 広い海岸で、主催者がすぐに見つかるかな？



活動範囲が広い場合、参加人数が多い場合は、緊急時に直ちに参加者が主催者を見つけて、連絡することが難しい可能性があります。

例えば、緊急時に主催者に直接連絡できる手段（携帯電話・トランシーバー等 表 2-4）を持つチームリーダーを中心とした10名程度のチームをつくり、まとまって活動する方法があります。

また、参加者が主催者を見つけやすいように、主催者が揃いの目立つ服装をすることも検討すると良いでしょう（後述3.8参照）。

1.【初級者編】海岸清掃活動に参加する → 2.【中級者編】海岸清掃活動を主催する → 3.【上級者編】海岸清掃イベントを主催する

2.1 海岸清掃活動の企画・準備  
2.2 海岸清掃活動の実施  
2.3 事後活動の実施

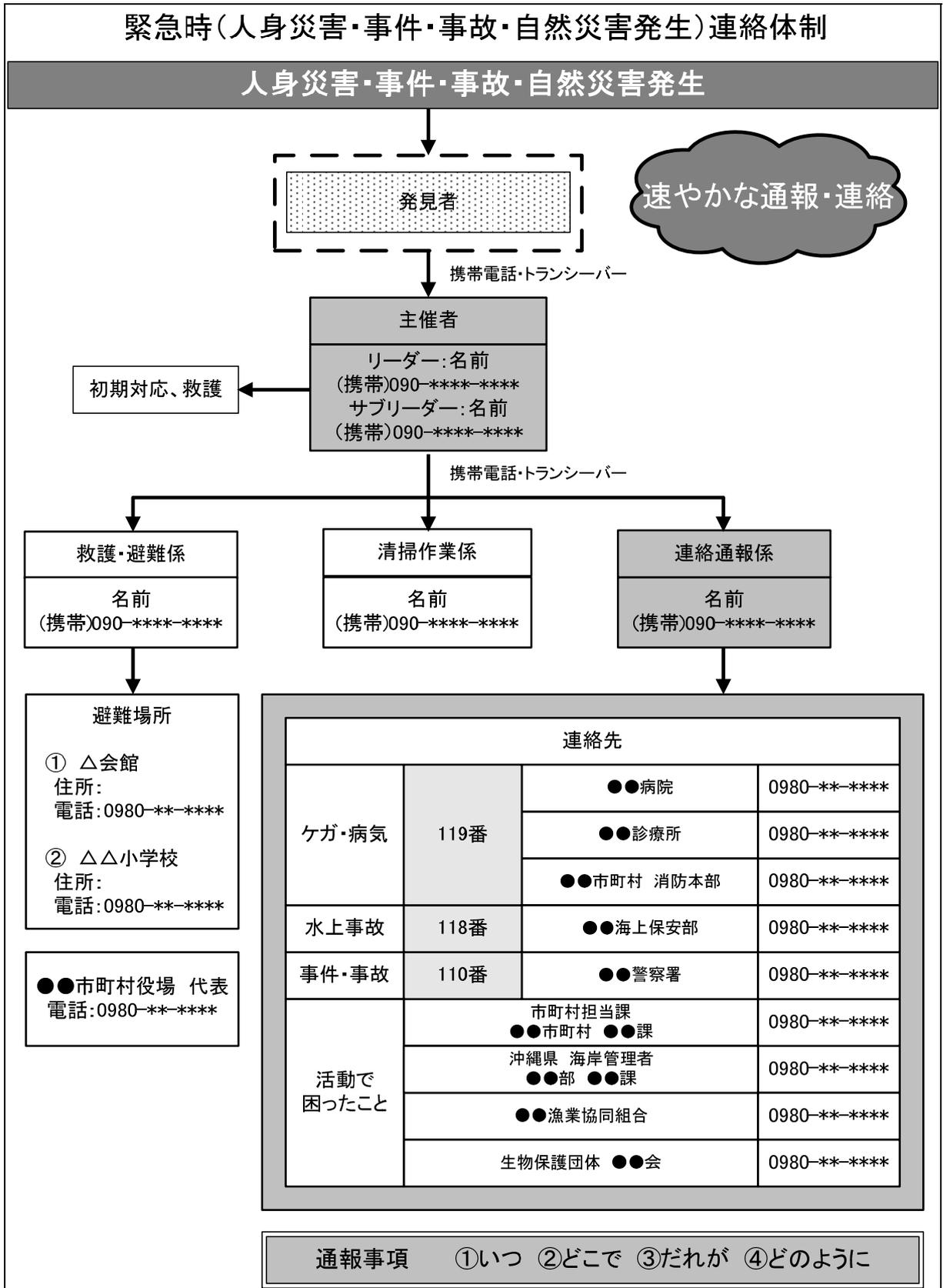


図 2-16 緊急時の連絡体制フロー図の例

⑧ 緊急時の対策をまとめる

過去の海岸清掃活動で発生した事例を参考に安全対策例を表 2-7に整理します。

表 2-7 海岸清掃活動中に発生した事例と対策例

	過去の事例	対応	対策
人身災害	・回収時に指を骨折した	・診療所で治療し、数日間通院した ・主催者がボランティア保険に加入しており、後日治療費が支払われた	・活動前の説明を徹底する ・ボランティア保険に加入する (下記参考3参照)
	・植生帯で蜂に刺された	・救急セットの塗り薬で応急処置して、病院へ行った	・服装のチェック ・活動前の説明を徹底する ・救急セット(表 2-4)を準備する
自然災害	・地震が起きて、津波注意報が発令された	・活動中止して一時解散とした (注意報解除後に再開)	・携帯電話やラジオ(表 2-4)から最新情報を入手して備える ・天候悪化が予想される場合は、中止や延期を検討する
	・天気が急変した	・活動中止して一時待機とした (天気回復後に再開)	

【参考3 ボランティア保険】

②保険制度の活用

ボランティア清掃活動については、一定の条件を満たしていれば、沖縄県社会福祉協議会が行う、ボランティア活動保険制度を活用することが可能です。また、各市町村社会福祉協議会でも、ボランティア活動保険または事業保険のどちらかに加入することが出来ます。



【「ちゅら島守り隊」沖縄県環境生活部環境整備課より】

ボランティア保険への加入を検討しましょう。海岸清掃活動の場合、保険掛け金は1人あたり数百円程度です(表 2-8)。補償内容については、保険会社とよく相談しましょう。掛け金の一部を、参加者に参加費として負担してもらう場合もあります。

・参考：ボランちゅねっと <http://volunchu.net/?q=node/8>

表 2-8 ボランティア保険の掛け金例

	掛け金	補償内容	備考
A社	28円/人	ケガ(死亡、後遺障害、入院、手術、通院)、賠償責任	最低加入人数あり
B社	289円/人	死亡・後遺障害、入院・通院保険	-
C社	500円/人	障害、賠償責任、死亡見舞金	-

### ⑨ 貴重な動植物や自然環境に配慮する

海岸は様々な動植物の生息地でもあります。活動時の侵入や踏みつけによって、生息地を破壊、景観を損ねることのないように努めます。貴重な動植物の生息状況を市町村担当課や地元の保護団体等に確認して、動植物に配慮した海岸清掃活動計画を立てましょう。

また、海岸に漂着している植物や貝殻、海藻、流木等の自然物は、それらを住処や餌としている動物がいるので、基本的に回収しません。動植物にとって障害となる場合のみ、市町村担当課や地元の保護団体等と相談した上で、例外的に回収する場合があります。



図 2-17 貴重な植物の例（竹富町） 左：マングローブ林 右：ハマシタン



図 2-18 貴重な動物の例 ヤシガニ（宮古島市）



図 2-19 ウミガメの産卵跡を囲って踏みつけを防ぐ様子（座間味村）

## ⑩ 活動場所を再度確認する

2.1.1①で海岸を決めるために下見をした後に、台風による倒木や生い茂った植物等で海岸へのアクセス路が通れないことやごみの集積場所が荒れていることがあります。開催 2～3 日前を目安に、状況を確認するために再度海岸へ行きましょう。

また、海岸清掃活動範囲内のごみの量が下見時から大きく変化している場合は、対策を考えておきましょう（P61 参考 4 参照）。危険なごみが漂着していないか、活動するにあたり危険な場所がないかも確認しましょう。



## ● 確認すること

- ・ 海岸へのアクセス路等に障害物がないか
- ・ ごみの集積場所の状況
- ・ ごみの量が大きく変化していないか
- ・ 活動範囲内に危険なごみや危険な場所がないか

海岸へのアクセス路に障害物がある場合は市町村担当課に相談し、危険なごみは警察や市町村担当課に相談して撤去してもらいましょう。危険な場所がある場合は、当日の開会式で参加者に注意を呼びかけましょう。



図 2-20 海岸へのアクセス路（石垣市）

左：水溜りを埋める整備が必要な道路 右：植物が刈られ整備されたアクセス路



図 2-21 危険な場所の様子 左：水辺（竹富町） 右：岩場（粟国村）

**【参考 4 海岸清掃活動の内容調整例】**

実際に活動する場合、漂着ごみの状況（種類と量）や参加人数、参加者の熟練度に応じて、活動内容を調整することが理想的です。「参加者が無理なく、ごみを回収すること」が大原則です。

漂着ごみの量に応じた調整例を下記に示します。

**● 漂着ごみが多い**

⇒活動範囲を限定する（狭くする）

⇒回収するごみの種類を限定する（例：ペットボトル限定で回収する 等）

**● 漂着ごみが少ない**

⇒余った時間を漂着ごみの学習時間に当てる

⇒関連イベントを行う

例えば、漂着ごみの量が非常に多い場合は、活動範囲を海岸全体ではなく、限定した範囲内のごみだけを回収する方法があります。また、回収するごみの種類を限定する方法もあります。

逆に漂着ごみが少なすぎる場合には、余った時間を使って、ペットボトルのラベルやバーコードから生産国を調べる等の漂着ごみの学習時間や関連イベントにあてるとよいでしょう。



図 2-22 海岸に漂着したごみの量の違い

左：ごみが非常に多い海岸（粟国村） 右：ごみがほとんどない海岸（竹富町）

## 2.1.8 広く参加者を募る

海岸清掃活動に慣れてきたら、①募集媒体、②募集要項を決めて、広く参加者を募りましょう。③参加申し込みに対応して、参加者名簿を作成しましょう。

### ① 募集媒体を決める

募集媒体には無料や有料、情報の伝わり方の違いがあります（表 2-9）。活動目的や内容にあったものを選択しましょう。

表 2-9 募集媒体別の長・短所

費用	媒体	長所	短所	備考
無料	HP	・全国的に伝わる	・インターネット利用可能な人に限定される ・興味のある人に限定される	・地域ネットワークの活用 (前出表 1-2参照)
	市町村の広報 回覧板	・地域に伝わる ・興味のない人にも伝わる	・地域が限定される	・市町村の協力が必要
	地区公民館			・地域の協力が必要 ・電話代の負担がある
有料	電話・メール (過去の参加者名簿利用)	・興味と経験のある人に伝わる	・新規参加者が増えにくい	・名簿が必要 ・通信費の負担がある
	新聞	・広域に伝わる ・興味のない人にも伝わる	・非常に費用がかかる	
	ポスター		・貼る場所で見える人が限定される	・貼る場所が必要
	チラシ		・ポイ捨てされやすい	・置く場所が必要

### ② 募集要項を検討する

次に募集要項を検討します。いつ、どこで、誰が、どのような活動をするのかわかりやすく伝えることが必要です。募集は約1ヶ月前からはじめるとよいでしょう（表 2-3）。



#### ● 伝えること

- ・日時（開催時間、集合時間）
- ・場所（海岸清掃活動をする海岸の場所、集合場所）
- ・主催者（団体名、個人名）
- ・注意事項（参加条件、持ち物、主催者が提供するもの、雨天・荒天時の対応、活動時の注意点）
- ・連絡先（代表者名、電話番号、FAX番号、Eメールアドレス）
- ・参加申し込み方法（必要な参加者情報）
- ・その他情報（地域情報等）

1.【初級者編】海岸清掃活動に参加する

2.【中級者編】海岸清掃活動を主催する

3.【上級者編】海岸清掃イベントを主催する

- 2.1 海岸清掃活動の企画・準備
- 2.2 海岸清掃活動の実施
- 2.3 事後活動の実施

**ビーチクリーンアップ**

日時：5月16日（月）10：30より2時間程度  
場所：しらほ・森川河口海岸（川の対岸側）  
主催：石垣島沿岸レジャー安全協議会、IBCC

集合場所  
白保・森川河口海岸（のぼり旗あり）  
5/16(月)10:30集合

森川  
森橋  
森原牛場

\* 川を渡りますので、長靴やマリンスーツ着用をお願いします。  
\* 熱中症対策を各自お願いします(帽子、水分補給等)。  
\* 雨天、荒天の場合は中止します。

問い合わせ先: [Redacted]  
楽しくビーチクリーンしましょう♪ よろしくお願ひします。

日時・海岸の場所・主催者

集合場所・時間

注意事項  
(持ち物、雨天・荒天時の対応  
活動時の注意点)

連絡先（代表者名・電話番号）

その他情報  
(地域情報、生息する動植物)

図 2-23 海岸清掃活動の参加者募集ポスター例  
(八重山環境ネットワーク HP より <http://www.churaumi.net/>)



事前申し込みがない海岸清掃活動もあるね！



同じ海岸を対象とした海岸清掃活動を定例化できた場合は、事前の参加申し込みを簡略化した自由参加形式でも十分な場合があります。

### ③ 参加申し込みへの対応

参加申し込みがあった場合、下記の参加者情報を確認して、必ず返信しましょう。確認の意味で海岸の場所、集合場所、集合時間等を再度連絡してもよいでしょう。

参加者が決定したら名簿を作成します。この名簿はボランティア保険（P58 参考 3 参照）の加入や今後の海岸清掃活動の募集連絡をする（表 2-9）場合に必要です。



- 確認すること
  - ・ 日時・場所
  - ・ 氏名、性別、年齢、住所、電話番号
  - ・ 当日の朝に必ず連絡が取れる連絡先（携帯番号、携帯メールアドレス）
  - ・ 自家用車利用の有無、送迎バスの予約等
- 返信で伝えること
  - ・ （確認）場所・時間、持ち物、注意事項
  - ・ （必要に応じて）駐車スペースの場所、送迎バスの場所
  - ・ 主催者の連絡先（携帯番号等）